

管領斯波家臣団

足利一門・斯波氏

斯波家は足利一門中で最も家格が高い家です。

というのも初代・家氏は足利泰氏の長子で、母は北条朝時（名越家）の娘なので本来ならば家氏が足利惣領となってもおかしくないのですが、弟の頼氏の母は北条時氏（得宗家）の娘だったため、頼氏が惣領となりました。それでも家氏の地位は高く、足利家の奥州の所領（志波郡）を与えられました。そして鎌倉時代は吉良氏とともに「足利」を名乗り続けました。南北朝時代も斯波高経は尊氏に対抗意識を持ち、高経の子の氏頼までは「斯波氏は足利の家来ではない」と考えていました。氏頼の弟の義将が管領となってはじめて足利本家と一体になりました。

足利尾張家

そもそも足利尾張孫三郎高経は「足利庶子一流の家督」と呼ばれる存在でした（つまり足利尾張家の惣領）。

さらには斯波一族の尾張弥三郎家長や彦三郎時家（大崎家兼）、竹寿丸（最上兼頼）らは、各国の武士団を率いる大将としての権限を持つなど、足利一門のなかでも大きな地位を占めていました。

同じく「足利庶子一流の家督」であった吉良氏（足利上総家）との比較は難しいですが。

[斯波家長の系譜について古代氏族研究会の樹童様との応答](#)で「斯波嫡流（足利尾張家）の系譜を考えると、「斯波家氏－宗家－宗氏－高経」とされますが、高経は、宗家の子である家貞の子と言われます。家長は宗氏の実子（或いは孫）で高経の後継に内定していたか、家貞の子で高経の弟だったのではないかと思います。ただし建武時代の家長の職責の重さは高経以上とも思えるので弟よりも従弟と覚えてしまいます。そもそも、足利尾張家は「家」字と「氏」字を通字に使用していました。宗氏の後は「高家」（足利家で「貞氏」「貞家」「高氏」は既に使用済み）と名乗るべきではないかとも思います。なぜ「高経」なんだろうかね？家長の後継が氏経（高経の子）の子である詮経（義高）であり、「高経－家長－（氏経）－詮経」が予定されていたような気がします。」と書いたように、斯波家長の系譜に疑問を持っていますが、同様に大崎家兼が斯波高経の弟という所伝にも疑問を持っています。

最上兼頼は斯波家長と同世代と思われるのですが、1305年生まれの斯波高経の弟の子とするのは疑問があります。

大崎家兼は斯波高経よりも年長ではないかと思っています。

というわけで、足利尾張孫三郎高経の長男で鎌倉幕府滅亡時に越前で挙兵した幸鶴丸は氏経のことだと考えています。

武衛内衆

斯波武衛家臣は、細川一族（或いは織田一族？）と言われる完草氏、下野出身で佐野一族の甲斐氏、宇都宮一族の氏家氏が有力な家臣でした。

越前入部後には斎藤一族の堀江氏や、織田・朝倉氏が加わりました。二宮氏は越中時代に加わったか？安威氏は幕府奉行衆がそのまま在京守護代を務めたのではないかと思います。築田氏や山内氏らは斯波領国の各地にいますが、皆同族でしょうか。

大崎家臣は一門衆（高泉、百々、古川）以外に氏家氏、諏訪氏、狩野氏、渋谷氏、里見氏が主だった者です。

最上家臣は一門衆（中野、楯岡、清水）以外に里見氏、大江氏、由利氏あたりです。

他には黒川氏、石橋（塩松）氏も斯波一門です。

本当なら、相馬氏 [〈佐竹家収録〉](#)、田村氏 [〈伊達家収録〉](#) も斯波家に収録すべきなんだろうな・・・。

朝倉家臣の魚住氏・山崎氏らは、赤松家臣出身のようですが、何か理由があるのでしょうか？宇野氏・小河氏・中村氏・富田氏も赤松家臣に存在する名字です。

織田氏について

織田伊勢入道常松の諱が何なのかというのは織田氏研究で未だに解決されていない謎かと思えます。

史料上で常松に該当しそうな人物は、信昌の子・将広か、系譜不明の教広ですが、系図上では教信も可能性があります。

一般的に武士の諱を考える上で重要なのは通字と偏諱なので、彼らに共通する「信」、「広」、「教」の由来を考えます。

織田敏広が伊勢守（おそらく淳広も）を名乗っていたことを考えると、嫡流の通字は「広」かと思われますが、常松の一・二世代前と思しき信昌の存在を考えると「信」も有り得ます。

さらに系図上では、教信が兄、教広が弟であり、教信の系統が伊勢守（子孫に敏広）、教広の系統が大和守（子孫に敏定）とされます。

常松時代の斯波氏は義将や義教（義重）なので、教信と教広の「教」は偏諱かと思われがちですが、斯波義教より明らかに世代が上である斯波家執事の甲斐教光や甲斐将教の存在を考えると、織田教信や織田教広が斯波義教の偏諱かどうか疑問も残ります。

時系列で並べると、1393年に信昌・将広親子の存在、1395年に斯波義将の出家（斯波義教が名目上の家督になる？）、1402年に常竹と教広の存在、1403年に常松の存在が確認され、1428年に常松の後任・教長の存在が確認できます。

斯波義将から偏諱を受けた織田将広は、若くして名目的には家督となった斯波義教（1371年生まれ）よりも年齢が高いと思われます。

「常松」名義で25年も活動しているので、常松は比較的若くして入道したものと思われるのですが、常松が入道する10年前に活動が認められる信昌の孫世代とも思えませんので、常松は信昌の子世代と考えます。

織田教長が斯波義教から偏諱を受けているとすれば、それは斯波義淳が管領となった1409年以前（どんなに遅くても義教が追放された1414年まで）のこととなります。

織田教長が斯波義教から偏諱を受けていないとしても（「教」字を教広・教信や甲斐教光・甲斐将教から受けたとしても）、1431年まで活動を確かめることから、年齢的に教長は信昌の孫世代、教広は将広の弟か甥と思われます。

斯波家支配体制

幕府管領 （斯波高経）・斯波義将・斯波義重・斯波義淳・斯波義郷・斯波義健・斯波義廉・斯波義敏

関東執事 斯波家長

九州探題 斯波氏経

引付頭人 斯波詮経

越前守護 斯波高経・斯波氏経・斯波氏頼・大野義種・斯波義将・斯波義重・斯波義淳・斯波義郷・斯波義健・斯波義敏・斯波義良

安房守護 斯波家長

若狭守護 大崎家兼・斯波氏頼・大野義種・斯波義将

越中守護 斯波高経・斯波義将

信濃守護 大野義種・斯波義将

加賀守護 大野義種・斯波義重

遠江守護 斯波義将・斯波義重・斯波義淳・斯波義郷・斯波義健・斯波義廉・斯波義敏

尾張守護 斯波義重・斯波義淳・斯波義郷・斯波義健・斯波義廉・斯波義敏・斯波義良・斯波義達・斯波義統

越前守護代 島田平内太郎・安威直資・二宮貞泰・甲斐教光・甲斐将教・甲斐将久・甲斐敏光・甲斐信久・朝倉氏景？

越前小守護代 二宮貞家・山岸光義・池田久時・狩野修理・一井帯刀左衛門・堀江利実・一井出雲・平右馬新左衛門・甲斐四郎左衛門

若狭守護代 氏家通継・二宮道智・完草義春

越中守護代 完草義統・二宮貞光・完草安芸太郎・大野義種

越中小守護代 由宇又次郎・長田弾正

信濃守護代 二宮氏泰・島田憲国・完草滋忠

信濃小守護代 二宮種氏

加賀守護代 二宮種氏

遠江守護代 甲斐将教・甲斐将久・甲斐敏光・甲斐信久・千福寛元・斯波義雄

遠江小守護代 大谷玄本・狩野七郎右衛門

尾張守護代 甲斐将教・織田教信？・織田教長・織田淳広・織田郷広・織田久広・織田敏広・織田輔長・織田敏定・織田寛定・織田寛村・織田達定・織田達勝・織田信友

尾張小守護代 伊東大和&甲斐若相・織田教広？・織田教長・織田久広・織田勝久・織田久長・織田敏定・織田広成

斯波家内衆

明德二年（1391）

斯波義重

由宇・二宮・甲斐・朝倉

明德四年（1393）犬追物

斯波義重（管領）

甲斐将教（八郎）、由宇氏実（新左衛門尉）、島田有家（弥三郎）

永享元年（1429）

斯波義淳

甲斐将久・織田淳広？・朝倉教景？

長祿元年（1457）

斯波義敏

甲斐将久・朝倉敏景・織田敏広

文明十五年（1483）

斯波義廉

朝倉氏景・甲斐敏光・織田敏定

長享二年（1488）

斯波義寛

織田寛村・二宮与一・島田重憲・織田広遠・二宮弾正・織田寛定？・山本広顕・島田右京・
織田寛広？・飯尾忠房？・織田豊前・二宮信濃

明応元年五月四日（1492）

斯波義寛

甲斐四郎兵衛尉・島田右京亮・二宮備中守・織田敏定

朝倉家支配体制

越前守護 朝倉敏景・朝倉氏景・朝倉貞景・朝倉孝景・朝倉義景

軍奉行 朝倉景冬・朝倉光玖・朝倉景高・朝倉教景・朝倉景紀・朝倉景鏡・朝倉景隆・朝倉
景健

敦賀郡司 朝倉景冬・朝倉景豊・朝倉教景・朝倉景紀・朝倉景堧・朝倉景恒

大野郡司 朝倉光玖・朝倉景高・朝倉景鏡

安居城主 朝倉経景・朝倉景職・朝倉景隆・朝倉景健

織田城主 朝倉時景・朝倉景儀・朝倉景延・朝倉景綱

池田城主 鞍谷御所

一乗谷奉行 朝倉景伝・朝倉景連・北庄景契・北庄景頼・前波吉当・前波吉勝・前波景定・
前波景当・小泉長利・魚住景宗・魚住景栄・魚住景固・河合吉統

府中奉行 朝倉光玖・青木康忠・青木景康・久原行忠・印牧広次・印牧美次・印牧新右衛
門・印牧美満

敦賀奉行 前波吉連・前波吉長・三段崎紀存・小河吉持・中村宗直・上田則種・上田紀勝・
上田堧良

清水寺勸進

文明十一年（1479）

500貫 朝倉敏景、

1000貫 朝倉氏景、朝倉貞景、

100貫 朝倉光玖、朝倉景冬、朝倉教景、

20貫 烏羽景忠、三段崎長縁、中野景亮、

20貫 吉川吉澄、堀江景用、魚住景貞、山崎吉家、杉若藤貞、印牧広次、桑原貞久、上田
直則、前波吉連、吉川吉明、西河原吉次、宇野久重、上坂康家、和田満重、吉田親重、伊自
良景国、千秋季藤、半田国久、小泉藤長、新保吉明、太平長友、梶野吉久、諏訪勝家、

10貫 梶野吉保、

朝倉義景家臣

永祿五年（1562）

朝倉景紀、朝倉景連、朝倉景恒、前波吉継、堀吉重、梶野吉仍

永祿十一年（1568）

同名衆

朝倉景鏡、朝倉景健、朝倉景尚、朝倉修理進、朝倉景茂、朝倉景嘉、鳥羽景富、北庄景種、勝蓮花景保？、阿波賀景堅、向景乙、三段崎虎松、朝倉道景、北庄景頼、中野景亮、溝江長逸、溝江景嘉、溝江長氏、溝江景満

年寄衆

前波景当、魚住景固、桜井元忠、青木景忠、梶野吉仍？、詫美景徳、山崎吉家

御手長

北庄景頼、三段崎景佳、溝江景満、三段崎三郎兵衛、桜井景道、魚住彦三郎

御部屋衆相伴

北庄景種、中野景亮

御走衆相伴

前波景当

詰衆右筆方同朋衆相伴

詫美景徳、山崎吉家

御小者衆相伴

河合吉統

朝倉景紀と朝倉景鏡とは席次争いをしていたので、どちらを家臣筆頭とするかは難しいところです。

①朝倉景紀、①朝倉景鏡、③朝倉景健、④朝倉景尚、という序列になります。

尾張支配体制

下津城主 織田教信？・織田教広・織田教長・織田郷広・織田敏広

岩倉城主 織田敏広・織田寛広・織田広高・織田信安・織田信賢

清洲城主 織田敏定・織田寛定・織田寛村・織田達定・織田達勝・織田信友・織田信長・埴原常安・織田信雄

犬山城主 織田敏定・織田広近・織田信康・織田信清・丹羽長秀・柘植重長・池田恒興・織田勝長

小口城主 織田広近・織田寛近

小田井城主 織田敏定・織田久孝・織田常寛・織田良頼・織田寛政・織田信張・織田信直・織田忠辰

楽田城主 織田久長・織田敏宗・織田寛貞・織田広光・島信正・織田信清・坂井政尚

日置城主 織田寛貞・織田忠寛

深田城主 織田順高・織田信次

勝幡城主 織田信定・織田信秀

那古屋城主 織田信秀・織田信長・織田信光・林秀貞

守山城主 織田信光・織田信次・織田信時・織田信次

古渡城主 織田信秀・織田信広・織田信正

末盛城主 織田信勝・織田信行・柴田勝家？

山形藩家臣

山形藩主	最上義光〈570000〉
一門	清水義親〈27300〉、山野辺義忠〈19300〉、上野山義直〈21000〉、大山光隆〈27000〉、楯岡光直〈16000〉、楯岡満茂（本莊満繁）〈45000〉、白岩光広〈12000〉、野辺沢康満〈20000〉、氏家光氏〈17000〉
家臣	志水光安〈30000〉、寒河江光俊〈27000〉、高楯正福〈20000〉、倉増光基（小国光忠）〈17000〉、里見民部〈17000〉、志水光秀〈13000〉、東根景佐〈12000〉、佐々木秀綱（鮭延愛綱）〈11500〉、滝沢政道〈10000〉、小国光基〈8000〉、中山朝正〈7000〉、新関久正〈6500〉、